

## 禅のお話 01

こんにちは、ナビゲーターの金子と申します。

本日は、禅僧の逸話を、お話させていただきます。お気軽にお聞きくださいませと思います。

禅について書かれた書物の「碧巖録（へきがんろく）」にある公案をご紹介します。

公案（こうあん）とは、おおやけの公に、案ずるの案、と書いて公案、禅宗における問答のことで、禅問答とも言います。禅宗で、修行僧が「悟りを求め、真理を究明する」ために与えられた課題のことです。

中国、唐の時代に、百丈懐海（ひゃくじょうえかい/749-814）という有名な禅僧がいました。

-----  
百丈のところにある僧がやってきて「いったい何が素晴らしいことですか？」と質問したところ、百丈は

『ここにこうして座っていることだ』と答えたのです。

-----  
お分かりになりますか？

私たちが通常、素晴らしいことと考えるのは世間的な価値です。しかしその価値は、時代や民族、また個々によっても違います。昔であれば多くの家畜を、または田畑をもっていることに価値があり、民族によっては大家族であることに価値があったことかもしれません。また金持ちであることが、評価が高いこともあれば、逆に何ももたない清貧の生活こそが、なによりも尊いのだ、という価値観もあるでしょう。

ところで、百丈はいろいろに変化する、世間的な価値や評価に関心はありません。

『いいか、わしがここにこうしてどっかと座っている。それが素晴らしいことなんじゃ』

と言ったのです。全く世間を離れていて、その素晴らしさを教えています。

その僧は、この言葉に感激したのでしょうか、僧は百丈に礼拝します。

すると百丈は、なんとその僧を叩きました。

なぜでしょうか？

百丈がせっかく「世間」を消し去ったのに、「世間」を代表したような僧がこのこやってきて、百丈に礼拝をした。ここでいう「世間」とは、有名な高僧だから教えを聞いた

い、有名な高僧だからその言動は素晴らしいものだろう、という期待や錯覚のことでしょう。百丈はその僧のなかに「世間」を見たのです。

百丈にとって、これほど迷惑なことはありません。だから百丈は、その僧すなわち「世間」を打ったのです。

なかなか面白い禅問答ですよ。

これを書いていて、私ごとですが思い出したことがあります。

今までの人生の中で、数は少ないですが「さすが金子さん」と言われたことがあります。

子供のときはメチャクチャ嬉しかったのですが、今の心境は違います。

自分なりの分析ですが、まずこの人は何と比較して言ってるのだろう、という疑問。

もう1つが、これからもその人の期待に応えられる自分でなくっちゃ！というプレッシャー。

簡単に言うと、「さすが」と言ってくれたその人に、縛られる気がするんです。

受け止め方次第だとは思いますが。ですから、だれかに対して自分からは「さすが」の言葉は、使わないようにしています。

「自分をさすがと言ってくれた人」を「世間」に置きかえてみると、この禅問答がよく分かる気がします。

出家とは、家を出ることから転じて、世俗の生活を捨て、僧となって仏道を修行することですが、禅は「脱世間」を提唱していると思います。語弊を覚悟で言えば、一見「世間をバカにしているように見える逸話もあります。

「世間から出る」、「世間のモノサシを捨てる」、「世間をバカにする」、そんな心持が大切だと、この公案は教えてくれているのだと思います。